

Catalogue No.

20454-7

「鄙茅」と「職人」の物語



二度と出会えない
かもしれない仕事。



日本料理と景観で話題の伊勢・宮川の里 鄙茅は、お施主が20年来の夢を実現した建物です。お施主と建築家のこだわり、それに応える多くの職人の高い技術と心意気から約5年の歳月をかけ完成しました。茅葺きという今では材料も職人も少ない建物へのこだわり。加えてこの建物が似合う日本の原風景のようなロケーションから生まれた鄙茅ですから、当然のように家具、

造作、什器にもこだわります。お施主の思いと建築家の「用美はやると言ったらやるんだろ」という叱咤激励に何度も試行錯誤を繰り返し、ようやく完成させることができました。たとえば左の写真のショーケース、框に約10メートルの1本物の樺の無垢材を使用しています。常識で考えればゆがみやねじれの強い樺材を使用するなど考えられませんが、建築家の熱い思いに用美は

introduction